

プロジェクトコーナー

ゼネラルサントス市を中心に3週間滞在し、各プロジェクトの進行状況を視察してきました。順調なものあり、遅れはあるものの住民がその重要性を理解して慎重に進めているものあり。HANDS はフィリピンの行政の手が届かない地域や分野での支援を行っています。

新規

栄養不良児童のための給食事業 (HANDS 自主財源事業)

豚肉、魚、カボチャ、モンゴ豆、塩、大きな鍋、フライパン、調理器具などと一緒にラムアフス小学校を訪問しました。空腹のため授業に集中できない子どもたちのためにと、小学校の先生方が待望していた給食が始まります(週3回、おかずのみ)。住民集会では、おかずの種類を増やすための学校菜園の手入れの順番や、調理の順番を1年先まで決定済みです。

気になるのは給食がない日のこと。「バナナやふかしたイモ、それすら持って来られない子どもは水だけで昼休みを過ごしています」とのこと。

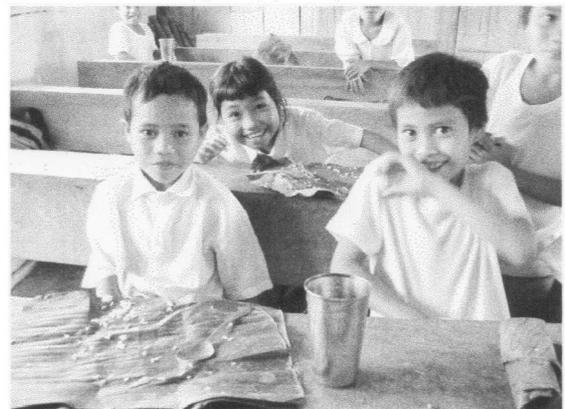
この事業はラムアフス小学校の他、アトモロック小学校、キアミ小学校の3校、約300名の児童のために3年間継続の予定です。



調理はお母さんたちが1週間交代でボランティアで行います。栄養価の高い食事の作り方、食育を学ぶトレーニングを兼ねています。



学年ごとに並び、1年生から盛り付けます。調理室は校庭のすみに建設中です。



朝炊いた大事なご飯、バナナの葉に包んで持参します。食事は教室で。

給食支援募金受付中！一食10円です(約300名3年間)

継続

先住民族中退児童のフリースクール (モスン教育) (昨年のPSFに続きNIA助成)

チボリ語併記の教科書を使用し、どこまで理解できたか。進級するか、飛び級か、もう1年学び直すか。より良い授業方法を考えるためにも、モスン教育で学ぶ子どもたちの学力を評価しなければなりません。常識、歴史、地球科学、環境、英語。シェリルさんは Wagu (姉) と呼ばれる先生たちの評価も行うため、大忙しです。

モスン教育は、児童、保護者、教師、教科書執筆者全員のチームワークで成り立っています。

